

曳家建築……泉州の門屋



工事風景：クレーンで移動中の門屋。腰板、押し縁もつけたまま

泉州の旧街道に面した旧家からの依頼で、築100年を超える主屋と門屋を壊さずに活用するプロジェクトです。やむ終えない土地利用のため現地に残す方法は無く、主屋は手祓し後、和歌山・湯浅の地に引き取られ現地で再び組上げられた。門屋は隣接地(高低差 3.5m)に移築することが決まり、「ころ」による180度に回転後、クレーン2台により吊り上げて、先行して施工済の基礎上に無事着地することが出来ました。移築門屋は意匠を合わせた増築部分と共に、かつての用途、「診療所」として再び復活できることになり……ひとつからふたつに～「ストック倍活用」です。



玄関ホール



移築後



移築前